

牟田陽日 九谷未来形
二〇二六年三月五日(土)〜十四日(月)
会期中無休



料金後納
ゆうメール

む た よ う か
牟 田 陽 日
く た に み ら い け い
九 谷 未 来 形

二〇一六年三月五日(土)〜十四日(月) 会期中無休
営業時間 十一時〜十八時 在廊日 三月五日(土)・六日(日)

牟田陽日さんは1981年東京生まれ。現在、九谷焼の産地、石川県能美市で色絵磁器を制作する女性作家です。ロンドンのアートカレッジで現代アートを学び、帰国後、石川県の九谷焼技術研修所で色絵九谷の技術を修得しました。2012年に卒業してまだ4年の歳月ですが、既に美術工芸の世界ではその名を知られる九谷焼の若手ホープです。牟田さんの器の魅力は、極細の筆による精緻な線と煌びやかに彩られた幻想的な描画の世界です。古典的な九谷焼の技法を背景に、現代アートの要素を融合させた斬新な絵柄。日本的な古典柄を、海外の視点から捉えなおしたニュージャポニズム。牟田さんの眼によって変容された畸形の日本様式に幻惑される支持者が国内のみならず海外にも増えています。

日本の焼き物の文化を、「侘び」と「華美」に分けるならば、九谷焼は後者の視覚的な美しさを代表する器です。五彩手、青手、赤絵、金襴手など色鮮やかで緻密な技巧を極める絢爛豪華さは、加賀文化が育んだ伝統の様式で、江戸初期に生まれた古九谷に始まり、江戸後期の再興九谷、明治のジャパングタニ、近代九谷、そして現代九谷と歴史の中で興廃を繰り返しながら、常に革新を受容することで、平成の今もしっかりと受け継がれてきました。

牟田さんは、伝統的な技法を使いつつ、前衛的な絵画要素を取り入れ、これからの九谷の未来形を提示しています。いずれ焼き物の文脈を超えて、さらに広い世界で活躍することを予見させる才能の持ち主です。本展では、器屋である弊社に合わせ、大人びたオーセンティックな絵柄を選んでくれました。従来より美術系焼き物のフィールドで活動されている牟田さんが、今回当店でのようなハレーションを起こすのか、美術寄りの視点で見てこられた方も、また日常食器に関心の中心がある方も、その折衷となる牟田さんの色絵九谷の世界にご注目頂ければ幸いです。

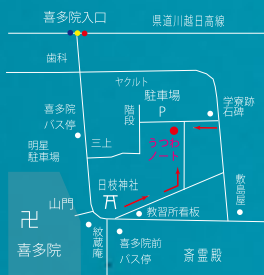
店主

プロフィール

1981年 東京都生まれ
2008年 ロンドン大学ゴールドスミスカレッジファインアート科卒業
2012年 石川県立九谷焼技術研修所卒業
2016年 現在、石川県能美市にて制作

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり] ~ [喜多院前]
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス] ~ [喜多院]
車：ギャラリー専用の新駐車場は北側(5~8番)

